住まい活動助成

一般社団法人 Omusubi

宮城県気仙沼市

空き家を活用した「子育てママたちのセルフリノベーションによる子育て環境づくり」の活動

「子育てシェアスペースOmusubi」の運営スタッフとそのお子さんたち

団体設立経緯

きっかけは、ママたちの「歯医者に行きたいけど子どもを預ける場所がない」という声でした。気仙沼市に住むママ137名に困りごとのアンケートを取ってみると、第3位に『子どもを預ける場所がない』という結果が現れました。

これらを受けて、ママが安心して子育てができる環境をつくるべく、気仙沼市内でも課題となっている空き家を活用し、一時預かり専門託児所、女性専用シェアハウス、リラックスルームの複合施設をつくるため、団体を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

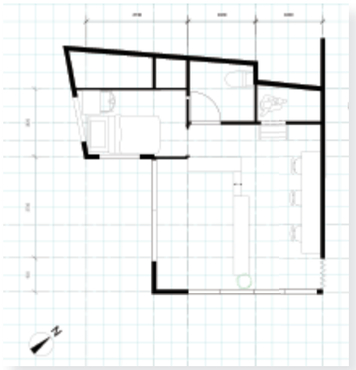
2020年2月、気仙沼市に「**子育てシェアスペースOmusubi**」をオープンしました。**一時預かり専門託児所**は、ママが安心して用事を済ませたり、自分のために時間を使えたりするように。**女性専用シェアハウス**は、いつか子どもを持つかもしれない彼女たちが、子どもとの生活を身近に感じて欲しいと思い併設しました。

そして**リラックスルーム**とは、託児に子どもを預けたママが同じ敷地内でゆっくり過ごすことができる休憩所です。ママたちがさらに羽を伸ばせる場所にするために、今回の助成金でこちらを改修しました。

活動に至った理由や背景

Omusubiのコンセプトは「**ひとりにならない・ひとりになれる**」です。ママがママの役割を下ろし、一個人として過ごす時間を保証することによって、ママの元気につながり、それが子どもや家庭、地域の元気にもつながると考えています。

また、託児に預けて家に帰っても家事をしてしまう、同居の親や周囲の目が気になるという声もあり、ママが安心して過ごせるようリラックスルームを同じ施設内に設けました。



（上）リラックスルームに改修する前の和室
（右）WSで集約したママたちの意見をもとに、何度も修正して描き上げた設計図

活動内容と成果

●図面作成

ママたちに声をかけ、どんなリラックスルームがいいか意見を出してもらうワークショップ（WS）を5月末に開催しました。総勢7名のママに集まっていただいたのですが、普段の生活では我慢しがちだからか、夢と希望に溢れる意見がたくさん出てきたのが印象的でした。中には「庭に増築して個室を増やす！」という意見まで出て、そこまでして1人になりたい熱い思いを感じました。

出た案をもとに、ああでもないこうでもないと何度も描き直した末にできあがったのが上記の図面です。図の左上はもともとあった部屋をそのまま生かし、鍵付きの個室にしました。「寝たい！」というママたちの意見を受け、産後授乳や夜泣きで睡眠不足のママが、託児に子どもを預けて仮眠が取れる部屋を用意したかったためです。その右のトイレを挟み、半個室があります。こちらは2段になっており、下に冷蔵庫などが置けるスペース、2階にカーテンを閉めてこもれる、通称“ドラえもんルーム”があります。

その下はカウンターをつくり、コンセントを通じてママがデスクワークができる作業台になっています。そしてその左側は小上がりスペース。琉球畳を敷き大きなクッションを置いて、ママがゆっくりマンガを読んだり動画を観たりできるスペースとなっています。

意識したのは空間をたくさんつくることです。「個室がたくさん欲しい」という意見があったように、ママには1人でじっくり過ごせる場所が必要です。しかし、壁をつくればその分圧迫感があり、部屋も暗くなります。そのため、カウンター・小上がり・ドラえもんルーム・個室と、過ごせる場所を選べるようにして、空間を分けるようにしました。

●解体、下地塗り、漆喰塗り

リラックスルームに生まれ変わるのは、八畳の和室と廊下、3畳半の個室です。解体作業は、地元の大工さんに手伝ってもらいました。

気仙沼地方特有の大きな神棚を解体したときには巻物が出てきてお宝かと思ったのですが、どうやらこのおうちを借りたときにもそういったものがゴロゴロ出てきたようです。

●壁づくり、ドラえもんルーム

こちらはまた別の地元の大工さんに来ていただきました。さらに詳しくお伝えすると、このOmusubiが立ち上がるきっかけとなった「絵本カフェ」という団体の代表を務めるママの実父になります。そこのお子さんともよく関わっているので、とうとう3世代でOmusubiに関わりを持ってくれることになりました。

●ママ・小学生壁塗りWS

ママと小学生向けに、それぞれWSを打ち出しました。2回開催したママ向けのWSでは、のべ8名のママが集まり、みんなで和気あいあいと壁を塗ってくれました。託児を利用してWSに参加してくれたママもいて、お子さんと離れて何かに集中する時間が取れたこともリフレッシュにつながったそうです。

小学生WSは、1回目は子ども4人を含む13名、2回目は子ども5人を含む10名が集まりました。この子どもたちが大人になるころには、私たちと同じようなコンセプトの施設が当たり前に地域にあるようにしていきたいですね。

●壁塗りWS

壁塗りには本当にたくさんの方に来ていただきました。古い民家ゆえ所々アクが出てしまい、全体で2回、多いところは3回重ねてしっくいを塗ったため、スタッフだけでは到底追い付きませんでした。下塗り（2度）＋Uトップ＋しっくい（2～3度）なので相当なミルフィーユ状態です。

手間はかかりましたが、人は自分が関わった物づくりには情が湧くものだと思うので、壁塗りを通して今後もOmusubiに来る動機付けに

小学生も利用者ママもスタッフも、全員参加で壁塗り

シェアメイトと託児利用者の動線を分けるため、居間の壁を壊して新たな階段への通路をつくる

なったかと思います。

●玄関工事

最初は窓を玄関代わりにしようとか、廊下の部分を下げて玄関をつくろうなど話が盛り上がったのですが、素人が安易に言うほど玄関づくりは簡単ではなく、玄関はシェアハウスとの共用ということになりました。しかし、2階に続く階段は玄関とつながっていたため、ある問題が懸念されました。それはお休みの日にパジャマで起きてきたシェアメイトと、託児に子どもを預けてゆっくりしに来たママが玄関でバッティングしてしまうことです。

そうなっては双方にとって安心は得られないので、居間の壁を壊し、新しく2階につながる階段をつくることにしました。このころにはスタッフもリノベの技術が上がっていたため、壁を壊す準備から片付けまでお手の物でした。旧階段と玄関の間にもベニヤで壁を貼り、気仙沼に遊びに来ていた大学生に塗ってもらいました。

●お披露目会

11月5日に無事に**リラックスルーム**がオープンしました。コロナ禍ですので招待客は前半6名、後半6名のママに限り、ゆっくりと見ていただきました。特にWSに来てくださったママは「こんな風になったの!?」と驚きを隠せない様子で、うれしそうに自分の塗った壁を見ていたことが印象に残っています。

それから、どうしてOmusubiがリラックスルームをつくったのかを説明し、ママたちにここで何がしたいか付箋に書き出してもらいました。「ゆっくりドラマが観たい」「お腹を

(**左**)完成したリラックスルーム　(**右上**)仕事もできるカウンタースペース　(**右下**)安心して仮眠できる鍵付きの個室

告知チラシ(**上**)とイベントの様子(**右2点**)

踏まれずに昼寝がしたい」など、切実なママたちの願いが込められていました。

WSを手伝ってくれた子どもたちに向けても、12月19日にお披露目会を開きました。子ども5名、ママ2名が参加し、自分たちがつくった場所を振り返ったり、ドラえもんルームの窓から顔を出したりと楽しく過ごしていました。

●その後のイベント開催

月に3～4回、リラックスルームでイベントを開いています。日中はママが託児に預けて参加できるように、夜はママ以外の地域の方にも広くOmusubiを知ってもらうために開催しています。**【表1】**

『**ママと子どもの健康チェック**』では、ママと子どもの身長・体重・血圧などを測ったあと、子どもは託児室で預かり、ママはリラックスルームに移動して、地域の助産師さんのお話を聴きます。子どものいやいや期、離乳食、おっぱいケアなど、毎月テーマを決めてお話ししていただき、個別相談もできるようにしました。「病院に行くほどでもないけど気になる…」というモヤモヤを解決できる場としても役立っていると思います。

『**ウクレレ弾いてみようの会**』は、「今日からウクレレを始める人よりはウクレレできるよ!」というスタッフが中心に立ち、ママや地域の人と楽器に親しむ場をつくっています。反応は上々で、特にママからは「子どもが生まれてから自分のことでこんなに集中できることってなかった」「次はもっと上手になりたい」などうれしい声をいただいています。今後はママや地域の方の「これならできるよ」というスキルを持ち寄り、イベントをつくっていけたら面白いと思っています。

また上記とは別に他団体とも提

【表1】リラックスルームでのイベントの参加者数

イベントの内容	2020年11月	12月	2021年1月	2月	3月
ママと子どもの健康チェック	6人	6人	4人	4人	4人
ウクレレ弾いてみようの会	—	2人	3人	3人	—
聴きあう場	4人	2人	—	—	—
ママへのワークショップ	—	—	—	4人	4人
Omusubi大掃除	—	3人	—	—	—
ちょこっと託児デビュー	—	—	—	3人	—
ウクレレ弾いてみようの会夜部		—	—	3人	—
どっぷりマンガを読む会（夜）	—	2人	—	—	—
ライブ観賞会（夜）	3人	—	4人	—	—

携し、整体やヘアアレンジのイベントなどを9回開催しました。こちらではのべ44組の親子に利用していただくことができました。

課題と解決方策

課題としては、リラックスルームの利用者がほとんどいないことです。実質11月～3月末まで、自分の休息のためにリラックスルームを使っていただけたのは6名のママに留まりました。理由としては広報が足りないことが挙げられますが、お金を稼いでいないママが、お金をかけて子どもを預けて休憩するということに罪悪感があるのも理由の1つと言えるでしょう。

解決策として、ママとのおしゃべりの場を通し、“ママが休むのは当たり前”という思いや、子育てがしやすくなるようなマインドを伝えていくことを考えています。また、気仙沼市のファミリー・サポート・センターの仕組みでは0歳児を無料で預けることができるため、同じような助成がOmusubiでも受けられないか、アプローチをしていきたいと思っています。

今後の予定

ママ、地域、行政に向けて新たなアプローチをどんどんしたいと考えています。その一方で、Omusubiは日々の託児があってこそと考えています。このコロナ禍でなければ、もしかしたらママ友同士でランチに行く利用も増えたのかもしれませんが、それでも、通院や上の子どもの行事、引越しの準備など、日々の生活での“ちょっと困った”に寄り添えていると感じています。田舎では口コミの威力が根強いので、遠回りに見えて一番の近道とも思います。今後もママの“困った”に寄り添い、気仙沼の子育て環境を良くしていきたいと考えています。

一般社団法人 Omusubi

2016年9月設立、2019年3月法人化／メンバー数：6人／代表者：田中 惇敏（たなか・あつとし）
●〒988-0085　宮城県気仙沼市三日町1-2-5　施設長 村上和佳奈
☎0226-29-6842　0226-25-7523　omusubi.kesennuma@gmail.com
おむすび.com　www.facebook.com/Omusubi.kesennuma/

母親・こども・父親、個々の欲求が満たされ、互いにひとりの人間として健やかに成長することができる社会を目的として、子育てシェアスペース運営を通し、地域の子育て環境向上に関する事業を推進しています。